

臨床検査センター「メモ」

〔1〕新規実施項目のお知らせ

・百日咳抗体 IgA・IgM

百日咳は、主に百日咳菌の気道感染による急性呼吸器感染症であり、ワクチン接種前や未完了の乳幼児が発症した場合、重症化する傾向があります。2000 年以降はワクチン効果が減弱した成人患者の報告数が増加し、乳幼児に対する感染源となっていることから、成人を含めた早期診断・治療開始が重要と考えられています。

百日咳抗体 IgA は、百日咳毒素 (PT) および繊維赤血球凝集素 (FHA) の総 IgA 抗体価を測定し、百日咳抗体 IgM は、百日咳菌に対する IgM 抗体価を測定します。IgA 抗体は病日約 21 日、IgM 抗体は病日約 15 日をピークに発現し、IgA 抗体は IgM 抗体よりも持続して検出されることが確認されています。IgA および IgM 抗体はワクチンの影響を受けないため、これまで急性期と回復期のペア血清を必要とした抗体検査において、単一血清での診断率向上が期待されています。

記

検査項目	: 百日咳抗体 IgA 百日咳抗体 IgM
検査材料	: 血清 0.5mL
所要日数	: 2~4 日
検査方法	: ELISA
基準値	: 8.5 未満 (判定基準; 下記参照)
実施料	: 80 点(「D012」感染症免疫学的検査の「12」)
判断料	: 144 点 (免疫学的検査)

▼判定基準

NTU 値	判定
< 8.5	陰性 (-)
8.5~11.5	判定保留 (±) ※
> 11.5	陽性 (+)

※2~4 週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。